

武蔵国分寺跡資料館だより

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum Newsletter

編集・発行・印刷

武蔵国分寺跡資料館
Musashi Kokubunji Temple Remains Museum

[住所] 〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10
[電話] 042-323-4103 [FAX] 042-300-0091
[E-mail] museum@city.kokubunji.tokyo.jp
[HPアドレス] <http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/shisetsu/1733/009819.html>

2011.10
第8号



武蔵国分寺跡資料館企画展

武蔵国分寺跡と

江戸文化人の出会い

- 開館時間 9:00～17:00 (入館は16:45まで)
- 期間 2011年10月22日(土)
～2012年1月29日(日)
- 会場 武蔵国分寺跡資料館
- 入館料 「おたかの道湧水園」への入園料が必要

100年以上続いた戦乱の時代に終止符が打たれ、徳川家康によって江戸幕府が開かれると、政治、経済、文化などの分野で様々な制度が創出されました。

例えば五街道が整備されることで、公用ではなく、私用の旅も安全に行えるようになり、伊勢参りや金毘羅詣に出かける庶民も増えました。また、江戸の人々は、神社仏閣めぐりや花見、紅葉狩りなどで近郊へ足を延ばすこともありました。

江戸時代中ごろになると、江戸の文人が、武蔵国分寺跡を訪れ、紀行文や地誌類に取りあげました。千年前の

奈良時代の寺院跡である国分寺跡は、江戸の文人にはどのように見えたのでしょうか。「新編武蔵風土記稿」や「江戸名所図会」などの地誌類から紹介します。

また多くの来訪者を惹きつけるために、国分寺の歴史と本尊薬師如来の靈験を記した「国分寺縁起」、実際に国分寺跡を訪れた歴史上著名な人たちの日記の記述によって200年ばかり昔の武蔵国分寺跡の姿をご覧ください。本企画展に貴重な資料を拝借し、ご協力いただいた方々には厚く感謝の意を表します。

平成23年10月

武蔵国分寺跡資料館



全高 194 cm
全幅 64.2 cm
奥行 41.6 cm



武蔵国分寺跡（大正10年頃）〈東京都教育委員会提供〉

大正11年に国史跡に指定される前の武蔵国分寺跡の写真です。僧寺金堂跡付近から撮影され、中央左には医王山最勝院国分寺（国分寺）の本堂と楼門があります。背後には国分寺崖線が広がっています。

武蔵国府中国分寺碑記〈国分寺薬師堂境内〉

宝暦6年(1756)3月権大僧都賢盛建立の碑です。碑の文は服部仲英、書は河原保寿によるもので、河原保寿は製作中に一日おきに石屋へ通ったという逸話が残っています。

明和4年(1767)大田南畝が19歳のおりに国分寺を訪れてこの碑を見て、服部仲英と面識があったことを思い出し、懐古の情に浸っています。また天保14年(1843)3月21日老中水野忠邦が国分寺村国分寺を参拝した後に、村では記念に碑の拓本を取り古瓦とともに献上しています。

(企画展では最近の拓本を展示します)

● 地誌に紹介された武蔵国分寺跡

江戸時代に作られた、武蔵国分寺に関する記述がある書物のうちで、記述内容を確認してみると、『新編武蔵風土記稿』と『江戸名所図会』のように大部なものや、江戸近郊に遊んだ『三餐余興』のような紀行文があります。一番古いものは享保21年の田沢義章『武蔵野地名考』です。

内容は、武蔵国分寺の由緒や古瓦、伽藍礎石、国分寺碑、薬師如来など武蔵国分寺に因むものと、炭焼き、富士見塚、黒金阿弥陀如来についてですが、狸の筆跡という不思議な話を記述している著者もいます。

また武蔵野の景色の良い場所8カ所を『武野八景』と名付けて紹介し、その中で「立野の月」と題して、武蔵国分寺北の国分寺崖線上からの月の出が選ばれています。

● 「国分寺縁起」の世界

私たちが、寺院や神社にお参りに行くと、創建の由来や祭神・本尊を紹介するしおりを戴くことがあります。それを読むとお参りした寺院や神社が、いかに尊いものであるかを知ることができます。

江戸時代半ばになると、地誌や紀行文が刊行され、江戸市中の人々がそれらの刊行物を読み、江戸の近郊へも出かけるようになりました。こうした「物見遊山」の人々に寺院や神社が、多くの参詣人を惹きつけるために創建の由来や靈験を木版刷りにして、配ったのが縁起です。

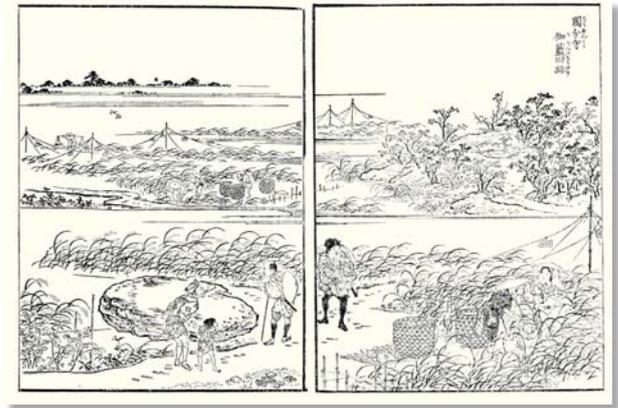
医王山最勝院国分寺の縁起は、聖武天皇の勅命により建立されたことや、薬師如来や十二神将が歴史上高名な源頼義や新田義貞、文覚上人などと関わりを持った靈験話として記述しています。また真姿の池や人見山（府中市浅間山）の名前の由来が靈験話となって紹介され、現在の私たちはこれらの話を地名の由来としています。

● 著名な来訪者たち

歴史上著名な二人の国分寺来訪を日記などをもとにして紹介します。一人は、江戸随一の文化人といわれた大田南畝です。南畝は、下級の幕臣である御徒でありながら、その文才で時代の寵児となりました。しかしそれが災いし出世に響いたといわれています。生涯に3回来訪しています。

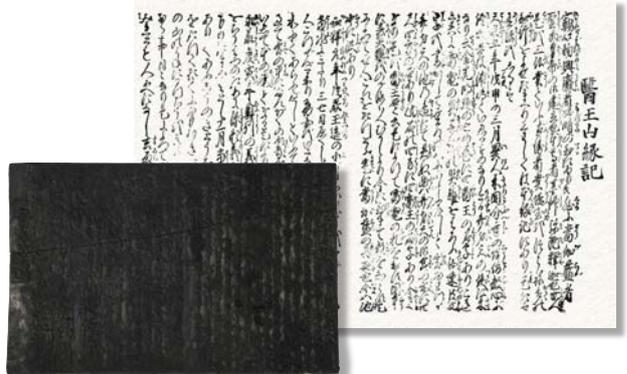
もう一人は、中学・高校時代に日本史の江戸時代を学ぶと必ず登場する「三大改革」のひとつ天保改革の推進者、老中水野越前守忠邦です。忠邦は、家康の母親の実家の血筋で、若いころの「青雲の要路」つまり幕府の要職に就き天下を掌握したいという夢を実現した人物です。將軍の日光御社参の訓練を兼ねたので、府中、国分寺、小金井を遠馬と徒歩で回っています。国分寺村の名主良助は、老中の来訪記録の末尾に「当村においては御入国後初めての儀につき御用控一冊認め置き後年熟覽いたすべし」と記録しています。

(企画展担当 太田和子・増井有真・坂上恵梨)



江戸名所図会 国分寺伽藍旧跡（部分複製）

大江戸およびその近郊の7巻 20冊からなる絵入り地誌です。武蔵国分寺跡に関わるものとして「国分寺」、「郡名瓦」、「国分寺伽藍旧跡」などが描かれています。



医王山縁起版木〈国分寺所蔵〉

建武2年7月の年月が記された「医王山縁起」の版木です。江戸時代に参詣人へ配布するために作られた版木で、2枚一組となっています。



国分寺印〈国分寺所蔵〉

古瓦を転用した印で、寺の朱印状などに押されました。この印の製作年代は昭和20年代ですが、それ以前も代々転用印を使用していたことを想像させる資料です。



御老中様方其外重御役人様方惣御遠馬二付諸御用控
〈個人所蔵〉

水野忠邦が、天保14年(1843)に幕閣の主要な人々を従えて江戸から騎馬で府中へ来た時の国分寺村名主の控え文書です。一行は総勢350人余り、馬28匹でした。国分寺村では国分寺で薬師如来に参拝した後、名主屋敷を所々ご覧になり小金井橋へ徒歩で向かっています。この時に訪れた名主屋敷は、武蔵国分寺跡資料館があるまさにこの場所でした。

Events

展示解説



企画展示「武蔵国分寺跡と江戸文化人の出会い」と常設展示の解説を行います。

【日 時】2011年11月4日(金)、12月11日(日)
※いずれも11:00、14:00の各2回(約30分)

【定 員】30名(前後)
【申 込】不要
【参加費】おたかの道湧水園の入園料100円
【集合場所】武蔵国分寺跡資料館 展示室1
【問合せ先】武蔵国分寺跡資料館 042-323-4103

ガイドボランティアによる現地説明



ガイドボランティアが史跡武蔵国分寺跡周辺の各場所で現地説明をします。

【日 時】2011年11月5日(土)
①11:00 ②11:30 ③12:00
④13:30 ⑤14:00 ⑥14:30
【解説時間】各回20分程度

【主な解説場所】
武蔵国分僧寺跡金堂跡、武蔵国分僧寺跡七重塔跡、国分寺楼門
【集合場所】各解説場所へ直接
【参加費】無料
【問合せ先】ふるさと文化財課 042-300-0073
※詳細は国分寺市報[11/1]・市ホームページでお知らせします。

歴史講演会「江戸時代の楽しみ―物見遊山―」



江戸時代の人々も現代の私たちと同じように旅や食べ歩きを楽しんでいました。その様子や江戸文化への影響などの講演です。

【講 師】青木直己さん(虎屋文庫研究主幹)
【日 時】2011年11月12日(土)
午後2時30分～4時30分(開場2時)
【内 容】1部 江戸の「公園」
2部 物見遊山と食

【定 員】50名
【申込方法】電話またはふるさと文化財課へ直接申し込み
【受付期間】10月3日(月)～25日(火)
※定員となり次第メッキリさせていただきます。
【申 込 先】ふるさと文化財課 042-300-0073
国分寺市西元町1-13-10
【会 場】市立第四小学校多目的ホール
国分寺市西元町1-8-1(JR西国分寺駅から徒歩10分)
【費 用】無料

歩いていく市外文化財めぐり



国分寺市域の約半分の面積を占める武蔵野新田の地割や、開発時に計画的配置により勧請、引寺された神社や寺院をめぐり、武蔵野新田開発の歴史をたどりまします。

【日 時】2011年11月23日(水祝)
9:00～17:00(予定)
【集 合】武蔵国分寺跡金堂跡

【見学先】武蔵国分僧寺跡金堂跡(集合)、武蔵国分寺跡資料館、姿見の池、熊野神社、内藤神社、満福寺、神明社、妙法寺、鳳林院、高木八幡宮、川越道緑地古民家園(立川市)、玉川上水、玉川上水駅(解散)
【定 員】50名(先着順)
【募集期間】11月2日(水)～16日(水)(電話で申し込み)
【参加費】100円
【問合せ先】ふるさと文化財課 042-300-0073
※詳細は国分寺市報[10/15]・市ホームページでお知らせします。

NEWS

無料公開日お知らせ

2011年11月3日(木祝)・5日(土)・6日(日)は、おたかの道湧水園秋の無料公開日です。

臨時休館のお知らせ

2011年10月17日(火)～21日(金)は展示資料入替のため臨時休館いたします。
10月22日(土)から通常開館になります。

東京都文化財ウィークのお知らせ

2011年10月29日(土)～11月6日(日)は、東京都文化財ウィークです。

来館者数

2009年10月18日～2011年9月末日

来館者数累計 32,431名

多くのご来館ありがとうございました

月	来館者数	開館日数
7	780	27
8	500	26
9	1,097	26
計	2,377	79

○来館者数は、おたかの道湧水園の入園者数
○来館者数()内は無料公開日の入園者数
○開館日数()内は無料公開日の日数

【7月～9月の学校見学】〔学年〕、〔人数〕、中＝中学生、高＝高校生、大＝大学生
<市内>第九小学校〔小6〕(60)、第六小学校〔小6〕(134)
<市外>立川女子高等学校〔高3〕(31)、東京電機大学中学校(15)、
白梅学園大学・白梅学園短期大学(15)



鐘楼跡全体図 (南から)

鐘楼は仏教寺院で梵鐘を吊るし、時間や儀礼を知らせる建物です。国分寺では一般的に経蔵(経典を納める建物)と対になって伽藍の両翼にある建物です。武蔵国分寺では、金堂・講堂の東側に鐘楼、西側に経蔵があったと推定されています。

推定鐘楼跡は、昭和40年度までの調査によって、東西二間、南北三間の礎石建物で、原位置を留める礎石が1個残っていることが確認されていました。また、建物を建てる前の地盤強化は、金堂跡や講堂跡のように建物範囲全体を掘り下げて版築する掘込地業(総地業)ではなく、礎石下部のみの坪掘地業(壺地業)と考えられていました。

しかし今回の調査で礎石の据付状況や基壇縁下部を確認したところ、建物全体に及ぶ掘込地業が行われていることがわかりました。また、建物周囲に一列に並んでいる川原石が基壇外装の一部であることが明らかになりました。



礎石および据付状況(南から)



掘込地業の版築(北から)

発掘現場見学会を開催します

推定鐘楼跡の現場見学会を2011年11月19日(土)に行う予定です。詳細は、市報[11月1日号]や、市のホームページでご案内します。

武蔵国分寺跡資料館ご利用案内



交通のご案内

【電車】JR国分寺駅下車/徒歩約20分 JR西国分寺駅下車/徒歩約15分

【バス】国分寺市循環バス「ぶんバス」日吉町ルート「泉町一丁目」下車/徒歩約8分
 国分寺駅南口より「京王バス」系統番号(寺83)・(寺85)乗車「泉町一丁目」下車/徒歩約8分

■開館時間

午前9時～午後5時(入館は午後4時45分まで)

■休館日

毎週月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)
 年末年始(12月29日から1月3日まで)
 ※展示替えなどで臨時休館することがあります。

■入園料

資料館に入館するには「おたかの道湧水園」への入園料が必要になります。(入園券は史跡の駅で販売)
 一般……………100円(年間パスポート1000円)
 中学生以下……………無料

【入園料の減免規則があります】

- 学校の教育活動で生徒(中学生を除く)、学生及び引率の教職員が入園するとき[事前(7日前まで)に減免申請書の提出が必要です。]
 - 身体障害者及びその介護者が入園するとき[発券窓口の史跡の駅で身体障害者手帳等の提示が必要です。]
 - その他教育長が特別の理由があると認めるとき[事前(7日前まで)に減免申請書の提出が必要です。]
- ※減免申請書は、国分寺市のホームページからダウンロードできます。

見る 学ぶ 訪ねる
武蔵国分寺跡
資料館
 Musashi Kokubunji Temple Remains Museum



モバイルホームページQRコード